

令和6年度学校評価計画書

R6

R5

項目	具体的取組	主担当	現 状	評価の指標	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象者 調査期間	達成度		判定		
									前期	後期	前期	後期	
1 主体的に学び合う子の育成 ★	① 基礎学力の育成	学力向上部 山本	○昨年度の教師アンケートでは、「児童の基礎学力の向上に結びつくような指導をしているか。」では、後期100%であり、教師の意識は高いと言える。 △課題となっていた算数においては弱点強化に向けた取組の結果、後期は83%の達成度であった。一定の成果は見られたものの、定着が十分とは言えない。	努力	T①:帯タイムや補充学習、合格テストを通して、基礎学力を身につけさせるための指導を個に応じて行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月			100%	A	
				成果	点数:学期末テスト(国語は裏のみ・算数は裏表)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均未満-3点未満 1:全国平均-3点以上	○4+3が (国・算のテスト結果) A:24学級 B:19~23学級 C:16~18学級 D:15学級以下	学期末 テスト			17学級	C	
	② 授業力の向上 ☆	校内研究の重点による授業力の向上 ・授業構想シートを活用した教材研究と学年間における共通実践の推進 ・個別最適な学びに向けた「学びの木」の活用	学力向上部 高澤	○児童と職員の「聞く・話す・反応する」力への意識は向上している。 △学年間差がある。 ○授業構想シートなどを用いて、日頃から重点を意識して取り組むようにしている。 △研究の重点について取り組むについて不安を感じている職員が多い。	成果	S⑧:授業で、聞き方名人・話し方名人・反応名人ができてきている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			84%	B
					努力	T②:学級の児童が聞き方名人・話し方名人・反応名人になるように十分指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が 14学級中 A:13学級以上 B:11~12学級 C:9~10学級 D:8学級以下	全教員 7・12月			100%	A
					満足度	S⑨:授業では、「学びの木」を使って自分で学び方を選んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			新	新
					努力	T③:学校研究の重点「児童が主体的に自分に合った学習方法の選択」をするために、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90%未満 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月			新	新
	③ 思考力の育成	調査問題を活用した検証問題の実施	学力向上部 三津谷	○問題に線や丸を書いて、問題で何を聞かれているか明らかにしながら解こうとしている。 △条件を正確に捉えたり、用語やキーワードを使って最後まで書き切ることが苦手。	努力	T④:児童に用語やキーワードを使って書きさせたり、線丸したりする指導をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	A:4が80%以上 B:4+3が80%以上 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月			100%	A
					成果	点数:各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	○全ての条件を満たして正答している児童が A:80%以上 B:70%~80%未満 C:60%~70%未満 D:60%未満	全児童 7・12月			34%	D	
	2 自ら考え 健康・安全な生活を送ろうとする児童の育成	④ 基本的健康習慣を定着させる取組	保健安全部 燈明	△健康的な生活習慣の定着は二極化している。近年ではメディア時間の長期化による視力の低下や、朝から元気がなく授業中の姿勢の保持が難しい児童もいる。家庭とも連携して「元気な七塚っ子」の育成のために、今年度も継続して早寝早起きの推奨を呼びかける。	成果	S⑩:自分で決めた就寝・起床時間を守っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月			89%	B
					成果	P⑧:子供の起床時間・就寝時間が守れるように努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月			86%	B

3 自他の違いを認め合い お互いを尊重し合う子供の育成 ☆	⑤ 進んであいさつする態度の育成	・生活目標による重点取組月間の設定 ・グッドマナーキャンペーン時の自己評価シート ・児童会と連携したあいさつ運動やキャンペーンの実施	生徒指導部 鶴田	昨年度後期、児童は93%が進んであいさつできていると回答している。	成果	S①:いつでも、どこでも、だれにでも すすんであいさつをしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:55%以上70%未満 D:55%未満	全児童 7・12月	93%	A	
			生徒指導部 鶴田	昨年度後期、99%保護者は時と場に応じたあいさつができていると回答している。	努力	P⑨:子どもに、時と場に応じたあいさつを指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月	99%	A	
	⑥ いじめ防止・不登校対策 ☆	・いじめ防止基本方針と具体的な取組を共通理解する ・児童会を活躍させるなど、児童主体でいじめ・不登校防止活動に取り組む ・どんな言動がいじめにあたるのかを児童に指導する。 ・いじめや不登校に関する学校の様子や取組をHPや生徒指導便りや積極的に伝え、家庭と連携する ・毎月4回(学級の様子2回、配慮が必要な児童の対応検討1回、個人カードの記録1回)、児童の情報の共有および個人カードの記録を終礼前に行う。 ・i-checkアンケートやいじめアンケート、ハートチェックなどの各種アンケートの情報をもとに面談を行い、日々の取組に活かす。 ・個別の対応が必要な児童については、適宜、学校支援委員会やいじめ対策チームを設置し、組織的に対応にあたる。	生徒指導部 鶴田	・昨年度後期、93%の子がいじめはどんな理由があってもいけないと感じており、一昨年度より横ばいである。	成果	S⑦:いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:100% B:95%以上100%未満 C:90%以上95%未満 D:90%未満	全児童 7・12月 (市7)	100%	A	
				・昨年度後期で、100%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると感じている	努力	P⑥:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月 (市7)	93%	A	
				・昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている	努力	T⑥:学校は、組織的にいじめ迅速な対応、個人カードの記入を行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	100%	A	
				・昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている	努力	T⑦:配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、活用を図っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	100%	A	
	⑦ 組織的な特別支援教育の充実 ☆	・今年度設置されたSSR(スペシャルサポートルーム)の理念を児童・教職員が周知し、支援が必要な児童に対して組織的に対応にあたる。	特別支援 CN 宮前	・昨年度より、教室になかなか入ることができない児童が3名入籍しているが、担任にかかる負担が大きく、なかなか組織的に対応しているとは言い難い。	努力	T⑧:登校に渋りを感じている児童や教室になかなか入れない児童に対して、ケース会議や保護者面談、校内特別支援会議などを活性化し、組織的な対応を行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	新	新	
	4 自己決定し チャレンジする力の育成	⑧ 自己有用感の育成	・終礼等の情報交換タイムでは、他の児童にとって手本となる児童や学校のために頑張っている児童の姿を共有する。	特活部 西田	・昨年度後期で、90%の児童が自分にはよいところがあると感じると答えていた。	満足度	S⑫:クラスや学校にとって良いと思うことを、自ら進んで行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	90%	A
			・児童の良い姿をその場でその時に価値づけしたり広めたりしていく習慣づけを行う。		努力	T⑨:行事などの活動では、個々に目標をもたせ、活動後にはふり返りの際に、学校や学級のために頑張っている児童を価値づけ広めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100%以上 B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	100%	A	
			・行事等活動では、めあてや目的を共有し、活動後にはふり返りの場を設定する。その際、自分が周りにどう役立てたか考えられるようにする。		努力	T⑩:1校1プランやスポチャレ、げんきっず委員会の取り組みなどに積極的に参加させ、運動能力の向上に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100%以上 B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	新	新	
5 学習場面に応じた	⑨ 基礎技能の習得	・教師が授業中にタブレット端末を利用した授業を設定する。 ・児童にミライシード(オクリンク等)・インターネット検索・動画や動画・写真撮影等を積極的に使用させ、習熟を図る。	ギガ推	・児童はタブレット端末の使用に意欲的である。 ・タブレット端末を授業の中で使用するのが難しい学年がある。(特に低学年)	成果	S⑬:授業の中で、タブレットを使うことで「分かりやすいな」と感じていますか。	4:よく感じている 3:そこそこ感じている 2:あまり感じていない 1:感じていない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	98%	A	
				・児童のタブレット操作には差があり、特にタイピングスピードには大きな差がある。	努力	T⑪:授業中に、児童にオクリンク・写真・動画撮影・スライド・Googleフォーム等のアプリを使わせて授業していますか。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	授業担当 教員 7・12月	100%	A	

1人1台端末の効果的活用	⑩ 効率的授業の達成率を高めるための効果的活用	<ul style="list-style-type: none"> 児童がタブレット端末を活用している授業の紹介を1学期に1度行う。 タブレットの基本的な操作方法や、校内の実践についてお便りを出し、確かめていく。 GIGA推進校のタブレット端末の有効的な活用事例を紹介し、校内のタブレット端末の有効活用について全職員で考察する。 	進部 湯上	<ul style="list-style-type: none"> R4年度の調査では100%の教師がタブレット端末を活用した学習を行っている。 タブレット端末の有効活用についての検証は今後も続けていかなければならない。 タブレット端末を日常的に使用するクラスとそうでないクラスに差がある。 	努力	T⑩:児童がタブレット端末を有効的に活用した授業を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 	<ul style="list-style-type: none"> ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 	授業担当 教員 7・12月		94%	A
6 職員の働き方改革の推進	⑪ 働き方の改革	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を設け、最終退校時間(19:00)の徹底を図る。 学校CN、SSSを積極的に活用する。 学年会や教材研究の時間を確保することで、教材を共有し、授業準備の効率化を図る。 	教頭 赤池	<ul style="list-style-type: none"> 学校CN・SSSの活用は定着しており、教職員の仕事が軽減されている。 提出物や提案文書作りに時間がとられ、教材研究の時間の確保に努めているが、十分に取れてはいない。 		T⑪:子どもと向き合う時間や教材研究する時間を確保するように働き方の改革に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 	<ul style="list-style-type: none"> ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 	全教員 7・12月		0.95	A